

E. coli由来のクレアチナーゼ、組換え型

Cat. No. NATE-1241

Lot. No. (See product label)

はじめに

『明 酵素学において、クレアチナーゼ(EC 3.5.3.3)は、次の化学反□を触媒する酵素です: クレ

アチン + H2O ↔ サルコシン + 尿素。したがって、この酵素の二つの基質はクレアチンと H2Oであり、二つの生成物はサルコシンと尿素です。この酵素は加水分解酵素のファミリーに 属し、ペプチド結合以外の炭素-窒素結合に作用するもので、特に線状アミジンにおいて働きます。クレアチナーゼは、クレアチンと水分子をサルコシンと尿素に□換する反□を加速しま

す。常にホモ二量体状態で作用し、塩化コリンによって誘導されます。

*別*名 クレアチンアミドヒドロラーゼ; クレアチナーゼ; EC 3.5.3.3

製品情報

種 E. coli

由来 E. coli

外□ 白色凍結乾燥物

EC番号 EC 3.5.3.3

*CAS*登□番号 37340-58-2

分子量 約80 kDa

活性 ≥ 15 U/mg

混入物 カタラーゼ **< 0.5**%

pH安定性 4.0-11.0

最適pH 7.0-9.0

熱安定性 53°C未□

最適温度 45°C

8.6 x 10^-3 M (クレアチン)

構造 48 kDaの2つのサブユニット(SDS-PAGE)

阻害剤 Hg2+

安定化剤 スクロース

単位定義 1単位(U)は、37°CおよびpH 7.7で1分あたり1 μ molの尿素を生成する酵素の量として定義

されます。

保管・発送情報

保存方法 -20°Cで